

**AY2021 Center for Inclusive Leadership (CIL)
Pedagogy Research and Event Subsidy**

研究代表者 Research Representative	所属・職位 Affiliation/ Position	言語教育センター 准教授	氏名 Name	JUNG Jonghee
研究課題名 Research Title	UDL 理論に基づくインクルーシブ授業の開発に関する事例研究: 立命館アジア太平洋大学の1回生演習科目と必修言語科目を対象に A case study of inclusive class development based on UDL concept: Improving the 1st year seminar and mandatory language subjects at Ritsumeikan Asia Pacific University			
研究メンバー Research Group Members	氏名 Name	所属 Affiliation	職位 Position	
	SUMIDA Tamaki	APU 言語教育センター	准教授	
	BERGER Maiko	APU 言語教育センター	准教授	
	TATEYAMA Hirokuni	APU 教育開発・学習支援センター	准教授	
	TSUTSUI Kumiko	APU 教育開発・学習支援センター	准教授	
NOTOMI Keiko	福岡教育大学	教授		

2021 年度 研究経過 (研究経過・到達点を明確にご記入ください。800~1,000 字)

AY2021 Research Progress (Please state clearly the research progress, results, approx. 400 words.)

2021 年度春semesterにおいてUDL 効果検証のためのパイロットテストを行った。本パイロットテストの経緯と結果は2021年12月に行われたAPカンファレンスのCIL Special Sessionにて詳細を報告した。以下に研究経過と到達点を明記する。

[日本語クラスにおける研究]

「日本語中級」クラスを対象にUDLを活用した授業を実践し、UDLが受講生の日本語学習に対する意欲向上、自律学習への促進に、どのような影響を与えたかについて考察した。日本語のスキルの得意・不得意に関するサーベイ、学習状況についてのリフレクション・シート、質問紙調査、半構造化インタビューを実施した。UDLを意識した取り組みは、学生たちから肯定的に捉えられていたことが分かった。学習意欲が向上し、自律学習の促進に寄与できたことがうかがえる。

[英語クラスにおける研究]

春学期は「英語準中級B」の2クラスを対象にUDLフレームワークを適用した授業を実践し、その効果を測定した。質問紙調査を実施した。UDLフレームワークを適用した取り組みに対する学生の評価は総じて肯定的であった。調査項目によっては一部「役に立っていない」という意見もあった。

秋学期は春の結果を踏まえて英語準中級B1クラスおよび「英語中級B」1クラスを対象にUDLフレームワークを適用した授業を実践し、その効果を測定した。質問紙調査、半構造化インタビューを実施した。研究参加者僅少による分析の難しさを克服するため、2022年度は別の英語教員にも協力を仰いで研究実践を継続する予定である。

[韓国語クラスにおける研究]

「韓国語IV」クラスを対象にUDL理論に基づいた授業改善を実践し、その効果を測定した。事前・事後テスト、学習意欲に関する質問紙調査、学業達成の変化を測るための深層面接を実施した。学習者の困りの度合いを確認することができた。UDLに基づく授業改善によって学習者の学業達成と意欲がどのように変化するかを測定するためにはUDL授業改善を行ったグループとそうでないグループの比較も有効であろうと考えられる。

[初年次教育における研究]

春semesterの「スタディスキル・アカデミックライティング(SSAW)」の立山クラス(48名程度)において、UDLのフレームワークを適用した授業を実践し、その効果を測定した。しかしながら、後に調査方法に不備が発覚したため、今回は研究成果としてはまとめず、あらためて調査計画を立て直し、来年度春semesterに再度調査を実施することにした。なお、その新たな調査計画については、2021年12月に行われたAPカンファレンスのCIL Special Sessionに

において「初年次アカデミック・ライティング授業における UDL の効果」というタイトルで発表した。また、初年次アカデミック・ライティング授業に関する先行研究の調査もおこなった。

2021 年度秋 Semester において UDL 効果検証のための授業改善と調査を行った。秋の調査結果は 2022 年 3 月現在、分析を行っている。分析結果は 2022 年度のイベント、経過報告書でその詳細を報告する。

2021 年度中の研究発表(予定を含めてご記入ください)

Publication of Research in AY2021(journal articles, conferences, etc.) (Please include future plans as well)

発表方法 Publication Methods	詳細 Details		
著書・論文等 Books or Articles	著書・論文名等 Title of Books or Articles	出版社／掲載誌・巻号等 Name of Publisher / Name and Volume of Journal	刊行年月日 Date of Publication
	JUNG Jonghee (2021) 보편적 학습 설계(UDL)에 기반한 ESP 교육과정 구상: 일본 리츠메이칸 아시아태평양대학의 사례를 중심으로 (UDL Framework-based ESP Course Development: A Case Study of Ritsumeikan Asia Pacific University in Japan)	韓国 ESP 学会, ESP Review 3(1),31-50 頁	2021/06
学会等 Presentation at an Academic Conference	タイトル Title	学会名 Name of an Academic Conference	発表年月日 Date of Presentation
その他 Others			
2021 年度 開催イベント(予定を含めてご記入ください)			
Events in AY2021(Please include future plans as well)			
イベント Event	イベントタイトル Title of Events	イベント詳細 Event Description	開催年月日 Date of Event
	学びのユニバーサルデザイン	Asia Pacific Conference, CIL Special Session	2021/12/05

2022 年度 研究計画 (800～1,000 字)

Research Plan for AY2022 (Please state clearly the research progress, results, approx. 400 words.)

学内における研究イベントを 1 件、書面の報告(2022 年度経過報告書)を 1 件予定している。

2022 年度春 semester も日本語、英語、韓国語クラスにおいて UDL の導入とその効果検証を行う。初年次科目に関しては、スタディスキル・アカデミックライティング(春)科目と多文化協働ワークショップ(秋)科目で同研究を実施する。

[日本語クラスにおける研究]

2021 年度秋 semester に関講されている日本語必修科目「日本語中級」DB クラス(履修登録学生数 17 名)を対象に、UDL のフレームワークを適用した授業を実践し、UDL が受講生の日本語学習に対する意欲向上、自律学習への促進に、どのような影響を与えたかについて考察する。受講生に対して授業方法や授業内容、授業への意欲、自律学習に関する質問紙調査を行う。質問紙調査回答を基に、半構造化インタビューを実施し、学習方法や学習意欲の変化、学生自身の変化を調べる。

また、2022 年度春 semester では、日本語必修科目「日本語中級」BB クラスの学生を対象に、引き続き UDL のフレームワークを適用した授業を実践し、その効果を測定する。特に日本語中級コース全体で行っている「自由な宿題」、「振り返りシート」の取り組みに UDL の手立てを入れ込む工夫を行い、日本語学習に対する意欲向上、自律学習への促進への効果を見ていきたい。semester 終了時には、質問紙調査、その回答をもとにした半構造化インタビューを行い、semester を通しての学生の変化について掘り下げて尋ねる。

[英語クラスにおける研究]

2022 年度春 semester に関講される日本語基準学生必修科目「英語初級 A」、「英語初級 B」、「英語中級」クラスにおいて、UDL のフレームワークを適用した授業を複数教員で実践し、その効果を測定する。UDL の手立ての中でも特に学生とのコミュニケーションおよび自律学習の促進に焦点を当てる。semester の終わりに質問紙調査を実施する。設問の内容は、2021 年度春・秋 semester の研究を踏まえて精査したもので、新たな UDL の手立ての有用性、受講生が好む英語学習スタイル、自律学習に対する自己評価、英語クラスの充実感、学生の困りごとなどを調べる。各設問の回答の平均値および標準偏差を算出するとともに、自由記述で学生の授業に対する評価を尋ねる。質問紙に基づき抽出した受講生への半構造化インタビュー(semester 終了時)を行い、各設問の不明瞭点や掘り下げたい点について尋ねる。

[韓国語クラスにおける研究]

2021 年度秋 semester 「韓国語 I」科目の一部の授業で UDL 理論に基づいた授業改善を実践し、その効果を測定する。当科目の受講者にとって UDL 授業改善が学習意欲向上に有効であったか、学業達成に有効であったかを明らかにする。UDL 授業改善を実施していないクラスとの比較を行う。受講者全員を対象に UDL 授業実践のためのアセスメントと事前・事後テストを実施する。秋 semester が終わったところで、学習意欲を把握するためのアンケートを行う。UDL 授業による学習意欲と学業達成の変化を測るための深層面接を行う。

[初年次教育における研究]

初年次アカデミック・ライティング授業における UDL の効果を検証する。具体的には、春 semester に「スタディスキル・アカデミックライティング(SSAW)」を 2 クラス担当し、このうち 1 つのクラスでは UDL 理論を適用し、もう 1 つのクラスでは UDL 理論を適用しないで授業をおこない、2 つクラスでの学習効果を測定する。秋 semester の「多文化協働ワークショップ」では、一部のクラスを対象に UDL 理論を取り入れた指導を行い、UDL の効果を測定する。言語の壁を減らすための工夫やグループディスカッションが苦手な学生のためのオプションの提示やサポートを行う。